

【事務事業調査】

事務事業名	文化財保存事業費		予算科目コード	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業 001-10-04-04-003-01-01-0
担当部課	教育部 生涯学習課	担当係長	公民館・文化係 鈴木 陸夫	事業の分類 既存事業

■事務事業の概要

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	H22 事後評価 ○町に所在する有形、無形、史跡、名勝、天然記念物を調査研究し文化財として指定のうえ、町民への公開に努めました。○文化財保存団体へ補助金を交付し、文化財に係わる行事の保存、継承を図りました。	○文化財として指定することで、貴重な文化財を保存、伝承していくことができます。また、指定文化財を公開することにより本町の文化の深さにふれ、歴史に対し再認識することができます。 ○文化財保存団体への補助金交付は、現在まで大切に守り伝えられてきた貴重な町の文化財を保存できますし、次の世代に引き継ぐこととなります。
	H24 事前評価 ○町に所在する有形、無形、史跡、名勝、天然記念物を調査研究し文化財として指定のうえ、町民への公開に努めます。○文化財保存団体へ補助金を交付し、文化財に係わる行事の保存、継承を図ります。	
実績		

■活動指標

指標	目標値	達成値	特記事項
文化財保護審議会会議開催数	2回		文化財指定に関する会議

■事業費(計画)

【単位:千円】

細節	金額	積算根拠
1 工事請負費	180	町指定文化財標柱工事:90,000円×2基
2 補助金	120	町指定民俗文化財保存団体:20,000円×6団体
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	300	

■事業費(実績)

【単位:円】

細節	金額	特記事項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	0	

■事業経費

		計画 【千円】	実績 【円】	特記事項
予算	当初予算額	300		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決算	決算額			
財源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0		
	差引(一般財源)	300		

■補助金等名:町文化財保存事業費補助

■補助事業者等:宝積寺白鬚神社雅楽部 外5団体

★自己評価基準

- (1)とてもよくあてはまる:5点
- (2)あてはまる:4点
- (3)どちらかというにあてはまる:3点
- (4)どちらかというにあてはまらない:1点
- (5)あてはまらない:0点

★総合評価基準

- (1)継続:総得点が35点以上
- (2)見直し:総得点が35点未満

補助金等交付基準		自己評価	評価に関するコメント	
1	公益性	■受益が不特定多数の町民に広く及ぶものであり、特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でない。	4	現在、6団体が登録。地域由来の行事(無形民俗文化財)や装束、屋台、たな等の有形民俗文化財を伝承・保存している。広く周知のため機会をとらえ発表を行っており、歴史民俗を紹介し町の活性化に貢献している。また、保存の重要性を認識しているため、後継者育成にも力を入れている。
		■町全体に波及効果が期待できる。		
2	必要性	■地域経営計画に即し政策的に奨励する事業であり、町民のニーズに即している。	4	団体の皆さんは、高齢化が進んでいるように感じられるが、本町の民俗文化財を伝承・保存する強い使命感があり、文化財保護行政の見地からも、必要な団体である。
		■社会動向を展望し、先見性・発展性がある。	3	
3	公平性	■民間、NPO、ボランティア等、既存団体等の活動を阻害しない。	5	既存団体等の活動を阻害しない。受益の機会は、有形民俗文化財(屋台等)や付帯行事の披露として、不特定多数に発信している。
		■町民のサービス受益機会が均等である。	1	
4	効果性	■事業効果が明確かつ具体的である。	4	補助要綱のとおり。実績報告書には、必ず領収書の写しを添付する。
		■予算の見積が適正である。	5	
5	適格性	■実施体制が明確である。	4	活動内容は、明確化されており年長者を中心に組織されている。保存には知識と経験が必要であり、将来を見据え後継者育成にも留意している。
		■自主・自立の傾向が明白で、将来計画がある。	3	
合計点数		36		
総合評価		継続		